

平成20年度及び平成21年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価の結果について

1 平成20年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0801	日本人小児の鉛曝露とその健康リスクに関する研究	吉永淳	東京大学	20年度～ 22年度 (3年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0804	プリオン遺伝子ホモノックアウト牛の特性に関する研究	吉川泰弘	東京大学	20年度～ 22年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0805	定量的リスク評価の有効な実践と活用のための数理解析技術の開発に関する研究	春日文子	国立医薬品食品衛生研究所	20年度～ 22年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0807	受容体結合測定法を応用した新食品等の健康影響評価法の開発と応用	山田静雄	静岡県立大学	20年度～ 22年度 (3年間)	継続	一部計画を修正のうえ、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。
0808	食品健康被害に伴う社会的過剰反応の確認、予測手法の確立とこれを最小限に抑えるためのリスクコミュニケーション手法の確立	今村知明	奈良県立医科大学	20年度～ 22年度 (3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、3年間のまとめを確実に行うこと。

2 平成21年度食品健康影響評価技術研究課題

研究課題番号	研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
0901	内分泌かく乱作用が疑われる化合物の実験動物を用いた低用量影響評価法の開発	青山博昭	(財)残留農薬研究所	21年度～22年度(2年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。平成22年度は最終年度となることから、2年間のまとめを確実に行うこと。
0902	ビスフェノールAによる神経発達毒性の新たな評価手法の開発	遠山千春	東京大学	21年度～23年度(3年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、強化・継続することが妥当。
0903	かび毒・きのこ毒の発生要因を考慮に入れたリスク評価方法の開発	小西良子	国立医薬品食品衛生研究所	21年度～23年度(3年間)	継続	一部計画の修正のうえ、継続することが妥当。
0904	日本沿岸海域における熱帯・亜熱帯性魚毒による食中毒発生リスクの評価法の開発	足立真佐雄	高知大学	21年度～23年度(3年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、強化・継続することが妥当。
0905	メラミンによる腎不全の発生機序の解明と健康影響評価手法の確立	郡 健二郎	名古屋市立大学	21年度～23年度(3年間)	継続	計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、強化・継続することが妥当。
0906	アルキルシクロブタノン類を指標とした照射食品の安全性解析	古田雅一	大阪府立大学	21年度～23年度(3年間)	継続	概ね計画のとおり実施され、着実な成果が得られている。研究計画に沿って、引き続き、継続することが妥当。